

2021年度研究活動方針(案)

(1) 学会設立10周年事業の推進

一昨年度から取り組み始めた次の諸活動を、会員の声を重要視しながら、推し進める。

- 1) 多世代・他領域にわたる会員の共同のもと、臨床教育学の課題と展望を明らかにするための研究協議を重ね、その成果を機関誌特別号または出版物として公刊する準備を進める。
- 2) 上記の取り組みと連動させながら、理事会・常任理事会を中心に公開研究会等を企画・運営する。

(2) 課題研究の再編成

すでに始まっている課題研究部会の再編に関する協議を継続し、2021年度のうちに、次の10年を見据えた臨床教育学の新たな研究組織を築く。

- | | |
|--|--|
| (現行) I | : 現代の子どもと子ども理解 |
| II | : 子ども・若者の育ちを支える地域からの共同 |
| III | : 発達援助実践と発達援助専門職－専門性の問い直しと養成・教育の改革 |
| IV | : 学校・教師の問題／教育実践と教師－教師像・専門性の再検討／教員養成・教師教育改革の課題を探る |
| V | : 臨床教育学の方法と概念 |
| 特別 | : 震災関連の調査・研究 (すでに総括を終えている) |
| (研究会「新型コロナウイルス感染症と臨床教育学」の研究活動を特別課題研究とする可能性の検討) | |

(3) 年次大会の充実化

学会や研究会、講演会などを現地開催することが減り、オンライン開催が増えている。こうした傾向が社会全体にあるなかで、大会の開催方法については、会員の立場を考えながら、柔軟に対応する。

次回の大会に向け、課題研究部会の新編成に関する協議を12月までに行う。企画案、発表者・司会者の候補については、2～3月の常任理事会で報告・討議し、5月の全国理事会で決定する。

(4) 会員・地域との研究交流の活性化

学会通信やホームページを充実させ、会員相互の研究交流を活性化させる。また、各地域(コミュニティ)において臨床教育学研究として意味深い諸実践を掘り起こし、その意義について領域を越えて探究できる可能性を探求する。

(5) 国際的な研究交流を探求する

臨床教育学の核心となる方法意識やそれを支える諸概念(学術用語等)を、国際的な研究環境の中で意識的に探究する。国際的な研究交流を一層重視し、これを活性化し、会員と分かち合えるような研究環境を整備する。英語版のホームページを拡充し、海外の会員との研究交流を推進する。大会案内等を英文で掲載するなどの可能性も探る。

(6) 事務局運営の充実化

上記の研究活動だけでなく、日常的なメール対応、収支管理・会計業務、入会希望者の審議準備、会員への年2回の会費納入案内を滞りなく遂行するため、事務局における分業・協働の体制を整える。さらに言えば、時間的余裕と実務遂行能力のある専従事務員が不可欠である。退職後の人材、大学院生やオーバードクターなど若手事務局員の獲得、人件費などの財政措置など、考えられる対策を講じる。